

認知症

「尊厳をもって最期まで自分らしくありたい」これは誰もが望むことですが、この願いをはばみ深刻な問題になっているのが「認知症」です。いまや老後の最大の不安となり、超高齢化社会を迎えようとする日本にとって最重要課題の一つとなっています。認知症は誰にでも起こりうる脳の病気によるもので、85歳以上では4人に1人にその症状があるとされています。現在は約210万人ですが、平成22年(2010年)には400万人程度まで増加することが予想されています。

《 認知症とはどういうものか 》

認知症とは、様々な原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりするために様々な障害が起こり、生活するうえで支障が出ている状態(およそ6ヶ月以上継続)を指します。代表的なものと症状は以下の通りです。

アルツハイマー型認知症 最も多いパターン。記憶障害(もの忘れ)から始まる場合が多く、他の主な症状としては段取りが立てられない、気候に合った服が選べない、薬の管理ができないなど。

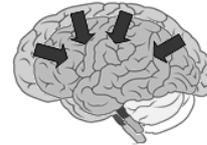
脳血管性認知症 脳梗塞や脳出血、脳動脈硬化などによって一部の神経細胞に栄養や酸素が行き渡らなくなり、神経細胞が死んだり神経のネットワークが壊れたりする。記憶障害や言語障害などが現れやすく、早いうちから歩行障害も出やすい。

レビー小体型認知症 体の動きが緩慢になるパーキンソン病に似た症状で、歩行の障害や体の硬さを伴う。幻視・幻聴が見られる。

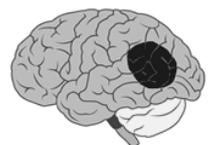
前頭側頭型認知症 人格や性格が極端に変わる、清潔保持・衛生面が管理できない、柔軟な思考ができない、反社会的な行動が増えるなど性格の変化と社交性の欠如が現れやすい。



健康な脳



アルツハイマー型認知症



脳血管性認知症

(厚生労働省 引用)

なお、遺伝によるケースは稀であり、さらに働き盛りの世代でも発症するおそれもあることから、認知症は誰にでも起こりうる病気と言えます。また、症状に気づき、「誰より一番不安になって苦しんでいる」のは「本人」であることを忘れてはいけません。認知症という病気を理解して、あたたかく見守り適切な援助ができる社会をみんなでつくっていきましょう。



「認知症かな?と思ったら」の巻

(内閣府大臣官房政府広報室「政府広報オンライン」引用)

「認知症はどうせ治らない病気だから医療機関に行っても仕方ない」という考えの方もおられるかもしれませんが、これは誤った考え方です。認知症についても早期受診・早期診断、早期治療は非常に重要です。とくに認知症の初期ほど診断が難しく、高度な検査機器と熟練した技術を要する検査が必要となり、専門の医療機関への受診が望まれます。

	加齢によるもの忘れ	認知症によるもの忘れ
体験したこと	一部を忘れる (例)朝ごはんのメニューを忘れる	すべてを忘れる (例)朝ごはんを食べたことを忘れる
もの忘れの自覚	ある	ない
探し物について	自分で努力してさがそうとする	誰かが盗ったなど他人のせいにするところがある
日常生活の支障	ある	ない
症状の進行	極めて徐々にしか進行しない	進行する

お口の雑学クイズ

- 働き盛りの世代で発症する「若年性認知症」が最も発症率が高い年代は?
A.40代 B.50代 C.60代
- アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症などの原因と考えられている脳内に蓄積されるある物質とは?
A.脂質 B.ビタミン C.たんぱく質
- 認知症の症状を改善させる、知覚・感情・言語による包括的なコミュニケーションに基づいたケア技法とは?
A.タクティールケア
B.ユマニチュード
C.インフォームドコンセント

※ 解答は4面 (インターネット他、引用)